

ともしび

2012



五月の第二日曜日は「母の日」ですが、私には思い入れの深い記念日になります。

三人兄弟の末っ子に生まれた私は、兄達と遊ぶよりも母親と一緒にいる方が好きでした。幼い頃、引っ込み思案だった私は、いつも母親の後ろに隠れていたようです。保育園へ送ってもらおう時も、母親と別れるのが悲しくて、泣いて嫌がるほどのお母さん子でした。

今ではすっかり大人になり、母親と離れて暮らす生活が長くなってきました。それでも、未だに「末っ子根性」は抜けていないようです。段々と「母の日」が近づくと、「今年は何を贈ろうかな」と考えてしまいます。年を重ねるごとに素直な気持ちを言葉に出すのが恥ずかしくなってきましたが、この記念日には感謝の気持ちを伝えてみようと思います。

さわき
ほうしよう
〈澤城 邦生〉

「ブツダと私」



天上天下
唯我独尊



今月の言葉は、お釈迦様が生まれてすぐに発したとされる「てんじょうてんげゆいがどくそん天上天下唯我独尊」です。この言葉はインドの経典が中国に渡ったときに中国語に訳されたもので、西遊記で有名なげんじょうさんぞう玄奘三蔵というお坊さんが意識したものです。

みなさんはこの言葉を聞いてどのような思われるでしょうか。いかにも仰々しくて、お釈迦様が上からの目線で話しているように感じてしまう方もいらっしゃるでしょう。私は初めて読んだとき、お釈迦様は、何故このような物言いをしたのかと不思議に思いました。文字通りに見てみれば、唯一私だけが尊いという意味にとれてしまうからです。実際に辞典で引いてみても「宇宙間に自分より尊いものはないという意」と書かれています。しかし本当に、自分だけが尊いという意味の言葉なのでしょうか。

一番この言葉が不思議に思えるのは、赤ん坊であるお釈迦様が話されたということです。常識的に考えれば、赤ん坊が話すことはありません。それなのに、生

まれて間もないお釈迦様が発した言葉として言い伝えられています。ただ単にあり得ないこととして、眉唾もの話にしてしまうのは簡単ですが、現代まで伝えられて来たことは事実です。そう考えたとき、次の話が思い浮かびました。

少し前、私の先輩に子どもが生まれ、赤ちゃんを抱く機会がありました。本当にかわいくて、とても幸せな気分になりました。先輩と子どもの将来について談笑していました。「パイロットになりたいと言いだしたらどうしよう」とか、「野球選手になるならピッチャーがいいね」だとか、いろんな可能性について話をしました。その話の最後、父となった先輩は「この子がこの子であってくれればいい」と言ったのです。私はとても感動しました。

この子がこの子であればいいというのは、自分を見失わずに生きて行って欲しいということですが、それは、自分を大切に生きていくことであり、自分を尊いものとして生きるということなのです。

「天上天下唯我独尊」という言葉は、口に出して言うてしまうと安っぽい独りよがりなものに感じます。けれどもそれは、経験のある大人が言うからそう感じしてしまうことです。経典には赤ん坊であるお釈迦様が口にしたとされています。それは普通に考えればあり得ない話かもしれませんが、私には赤ん坊が言っているからこそ尊い言葉として感じられるのです。

赤ん坊には区別はありません。区別する理由もありません。逆に大人になるといろんなものを比べ、経験によって区別してしまいます。それは生きていく上で必要なことですが、区別することで見失ってしまうこともたくさんあるのです。自分を尊いとするお釈迦様の言葉は、何者とも比べることのできない自分自身への言葉なのでしょう。

私は今まで、ただの知識として「天上天下唯我独尊」という言葉を知っていました。しかし、先輩家族との団らんで、生きた言葉として理解することが出来たのです。

私の

ふるさと

第一回 宮城県 松島まつしま



岸から眺める松島

今月は私のふるさと、宮城県の観光名所「松島」をご紹介します。松島湾には、大小二六〇もの島があり、その全てに松が生えています。岸から見える景観には、とても趣おもむきがあり、天橋立あまのはしだて・宮島みやじまと並ぶ日本三景の一つとされています。

かの松尾芭蕉まつおばしやうは、あまりの素晴らしさに、歌に詠よめなかつたという話もあります。しかし、私が子供の頃は、景色よりも遊覧船でウミネコに餌をあげたことの方が思い出に残っています。子供心に衝撃的だったのは、鳥がスナック菓子を食くべるといふことです。慣れてくると手渡しでも餌を食くべてくれて、恐る恐る手を伸ばしながら餌をあげていた記憶があります。

松島には、子供の頃から家族旅行や小学校・高校の学校行事などで、よく出掛けていました。見る時期、見る場所、見る人によって様ざまな風景を見せてくれる、私にはとても思い出深い場所です。

〈三宅 大哲みやけ だいてつ〉

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2012(平成24)年 5月1日発行 第364号